

## 滋賀県文化情報

## 『えんむすび』

## ●「第73回滋賀県美術展覧会」

## 作品募集！のお知らせ

滋賀県美術展覧会は、広く県民の皆さまに日頃の創作活動の成果を発表していただく場としてまた、身近に芸術を鑑賞していただく機会として毎年開催しています。この歴史ある美術展に、あなたも是非ご応募ください。

## ●応募資格 滋賀県内に在住または通勤・

通学する方（中学生以下は除く）

## ■応募部門 平面（日本画・洋画など）、立体、工芸（陶芸・染色など）、書の4部門

## ■作品搬入

【平面・立体・工芸・書】2019年11月2日（土）、3日（日・祝）

於：滋賀県立文化産業交流会館

【平面・書】11月3日（日・祝）

於：草津市立草津クレアホール

※いずれも10時30分～16時

## ■展覧会

【会期】11月14日（木）～20日（水）

【会場】滋賀県立文化産業交流会館（米原市

下多良2の137）

## ■その他

公開審査：11月6日（水）11時～

於：滋賀県立文化産業交流会館

審査員による講評会：11月17日（日）

工芸・書：10時30分～

平面・立体：14時30分～

## ■募集要項等問合せ先

（公財）びわ湖芸術文化財団 地域創造部まで

（TEL）077・523・7146

●島根県立美術館にて「小倉遊亀と  
院展の画家たち展―滋賀県立近代  
美術館所蔵作品による―」を開催

リニューアル整備のため現在長期休館中の滋賀県立近代美術館では、全国の皆さんに



菱田春草「落葉」（滋賀県立近代美術館所蔵）  
7月31日～8月26日に展示

所蔵作品の魅力を知っていただけるよう各地の美術館・博物館に作品貸出をしています。今回、島根県立美術館（島根県松江市）では、女性初の日本美術院同人で文化勲章を受章した大津市出身の小倉遊亀（1895～2000）の名品とともに、師の安田靉彦をはじめとする院展の仲間たちの優作が一堂に会する展覧会を開催します。

滋賀県立近代美術館が誇る近代日本画の粋をまとまって見ることができ、貴重な機会ですので、夏休みのお出掛けの際にぜひ訪れてみてください。

・会期：2019年6月28日（金）～8月26日（月）※会期中展示替があります。

・開館時間：10時～日没後30分（展示室への入場は日没時刻まで）

・休館日：火曜日（ただし8月13日は開館）  
・観覧料：一般：企画・コレクション展セ  
ット1150円、団体（20名以上）は920

円。※企画展のみの観覧券や学生料金有。詳細は島根県立美術館のホームページなどをご確認ください。

・特別協力：滋賀県立近代美術館

※同展覧会は9月13日から11月4日まで富山県水墨美術館に巡回します。

※70代の「アートのみかた―滋賀県立近代美術館所蔵作品をもとに―」でも本展出品品を紹介しています。

## Made in Shiga 身近に感じる「美」の世界

● 気づくたびに、豊かになる。

滋賀を自慢したくなるローカルメディア「しがトコ」

編集長 亀口 美穂

日が落ちるにつれ、淡くピンク色に染まる空。澄んだ空気と、透明度の高い光。そして、その美しい景色を、湖面いっぱいに映す鏡のような琵琶湖。2012年に大阪から滋賀へ移住してきた私をまず驚かせてくれたのが、この琵琶湖の素晴らしさでした。季節によって、時間によって繊細に表情を変えていく。滋賀の真ん中で満々と水を湛える琵琶湖は、まるで巨大なアート作品のようでした。

近年に実施された「暮らしアート事業」の中から地域を元気にする主な取り組みを紹介しします。

人は、何を見るかによって感性が作られていきますが、そういう意味では、滋賀の文化はこの雄大なロケーションによって作られてきたと言えるのではないのでしょうか。この豊かさを、もっとたくさんの人に伝えたい。そんな想いからローカルメディア「しがトコ」を立ち上げました。

「しがトコ」では「自慢したくなる」という感性を大事にしています。SNSがコミュニケーションの主流となった昨今、「思わず誰かに伝えたいくなる情報」は大きな意味を持ちます。感動や驚き、感性の「揺れ」を共有することで、情報は伝播していくのです。特に



インスタグラムの写真から誕生したカレンダー



琵琶湖博物館でのSNSツアー



守山市立図書館のイベントには3千名参加

写真共有SNS「インスタグラム」では、伊吹山のある壮大な風景や、田園風景を走る近江鉄道、色彩豊かな琵琶湖をはじめ、さまざまな角度で切り取られた滋賀を紹介し、大きな反響を集めてきました。現在では「しがトコ」のSNSファン数は合計で7万人を超え、県外も含めた多くの方に滋賀の魅力が伝わっていることを実感しています。

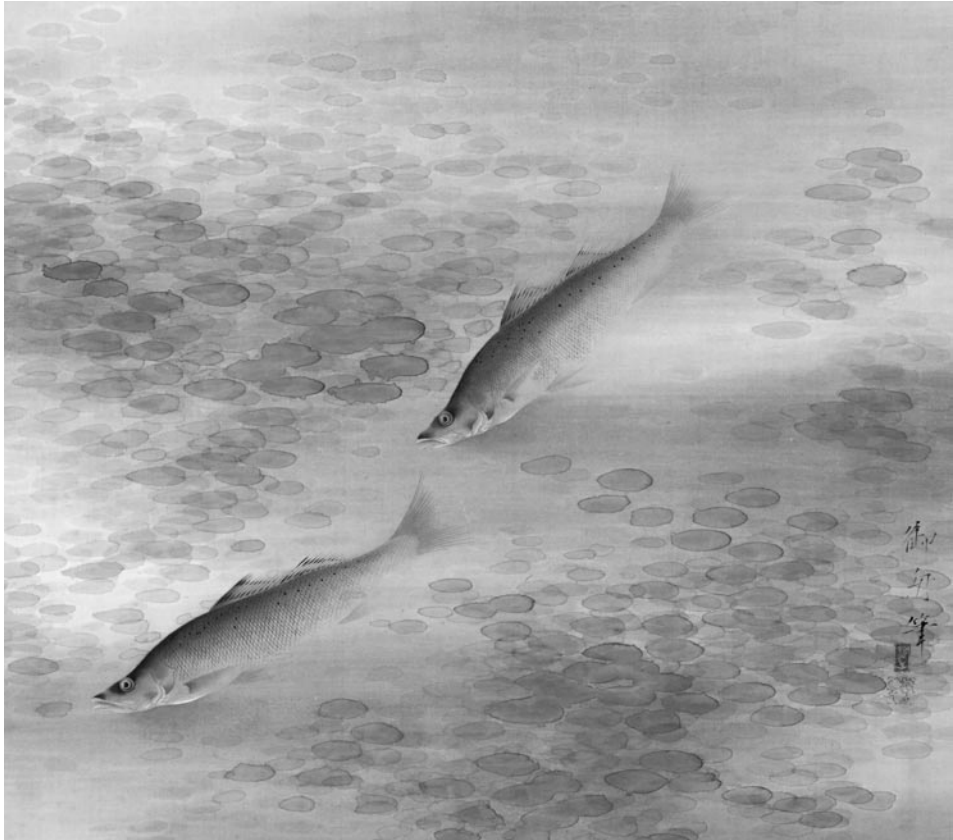
2019年2月には「滋賀県地域の元氣創造・暮らしアート事業」の取り組みとして『美の滋賀BACKSTORY』という1DAYイベントを、新しく生まれ変わった守山市立図書館で開催しました。滋賀県各地のアートプログラムや、文化、伝統などを、もっと身近に感じられるよう、トークセッションや作家市、ワークショップ、インスタレーションを実施し、当日は、3000人以上の来館者で賑わいました。

滋賀に住み始めて8年目。そこにある豊かさに、気づけるか、気づけないかで見える世界は変わってくるのだと思います。滋賀の豊かさには限りはありません。魅力を切り取る視点と感性を大切にしながら、移住してきた当時の感動を忘れず、これからも滋賀の発信に携わっていこうと考えています。

（滋賀を自慢したくなるローカルメディア「しがトコ」HP <https://shigatoco.com>）

## アートのみかた

### — 滋賀県立近代美術館所蔵作品をもとに —



速水御舟「遊魚」大正11年（1922） 一幅 絹本着色 滋賀県立近代美術館所蔵

## ● 近代日本画にみる 中国絵画の影響

滋賀県立近代美術館学芸員 大原 由佳子

出世魚であるスズキは、小型の時はセイゴと呼ばれます。本作には二匹のセイゴが描かれています。ウロコやヒレの部分には金泥が使用されており、近くで見るときらきらと輝いています。

水中の魚や藻類を主題とする絵画は藻魚図と呼ばれ、中国で古くから描かれてきました。大正時代は中国の古典的な絵画に注目が集まっていた時期で、本作の作者である速水御舟もまた、中国絵画に影響を受けた一人でした。本作の落款は瘦金体と呼ばれる細い書体で書かれています。瘦金体は中国北宋の徽宗皇帝が作り上げた書風で、皇帝の書の典型例のひとつです。御舟は伝徽宗《水仙鵝図》の写真を画室に飾っていたとの逸話も残っており、徽宗皇帝を含む中国絵画への深い理解の上で御舟が本作品に取り組んだことがわかります。

※本作品は島根県立美術館で開催される「小倉遊亀と院展の画家たち展―滋賀県立近代美術館所蔵作品による―」に展示されています（展示期間は6月28日～7月29日のみ）。展覧会の詳細は68ページの「滋賀県文化情報『えんむすび』」をご覧ください。

## オペラ日和

### ●子ども向けオペラ「泣いた赤鬼」、

県内、中国・山陰で23公演

びわ湖ホール事業部 チーフプロデューサー

館脇 昭

1998年に開館して以来22年に亘り多くの舞台芸術作品を上演し続けている「びわ湖ホール」は、本年8月から12月迄の4ヵ月間、大ホールと中ホールを改修のため休館いたします。この期間を利用して、県内のホールおよび教育委員会と協力して各地のホールや小学校で、子ども向けオペラ「泣いた赤鬼」を11公演行います。さらに文化庁の巡回公演事業「文化芸術による子供育成総合事業」として滋賀県を飛び出し、中国・山陰地方の小学校で12公演、合わせて23公演実施します。

このオペラは、小学校の教材としても広く知られている浜田広介の児童文学に松井和彦が作曲したもので、「友だちとは」、「その時自分は」といった物語の持つ強いメッセージが松井の自然で親しみやすい音楽により子どもたちの心にストリートに入り込んでくる名作です。81年9月に日生劇場で初演、82年には「ジローオオペラ新人賞」を受賞。以来全国各地で何百回と上演されています。びわ湖ホールでも2009年の初演以降県内を中心に公演を重ねています。

びわ湖ホール開館に伴ってホールの専属団体として設立した「声楽アンサンブル」のメンバー

が出演し、ピアノ1台（4手）と、ティンパニーや多くの打楽器を使い、プロの奏者が子どもたちの目の前で演奏、ライブならではの臨場感を通じて、本物の舞台芸術をお届けします。会場作品に向き合う子どもたちの真剣な眼差しと、元氣いっぱい合唱で参加してくれる歌声に出会えるのを今から楽しみにしています。



オペラ「泣いた赤鬼」過去の公演より

### ●若手歌手の育成

びわ湖ホール声楽アンサンブルは全国規模のオーディションで選ばれた若手歌手の集まりです。小さい公演も含めると年間100を超える出演があります。華々しく舞台に立つこと自体、歌手の育成にとって極めて重要ですが、

一方で語学や発声、演技等の地道な研修を通してさらに自らを磨くということもまた重要です。ソプラノ歌手としてイタリヤを拠点に活躍する山崎美奈による声楽曲研修は、メンバーが二日間に亘り研修を受けます。山崎氏は1フレーズ聞いただけで問題点を把握、発声や表現についての確に指摘し、歌手と一緒に改善方法を見出ししていきます。研修を受ける前と受けた後での違いが手に取るように実感できる大変興味深い研修です。公開で行っていますのでぜひお越しください。

2019年8月22日(木)・23日(金)両日14時開演(小ホール)。

〈2日通し券〉

一般2,000円/30歳以下1,000円  
 (1日券) 1,500円(一般のみ)



昨年の指導の様子